

令和5年度 第2回安来市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和5年11月24日(金) 15時30分から17時00分まで

2. 会 場 安来庁舎301会議室

3. 出席者

(構成員) 安来市長 田中 武夫

教育長 秦 誠司

教育委員 加藤 隆志

教育委員 寺田 禎

教育委員 平野 千恵

教育委員 青砥 洋

(事務局) 政策推進部長 宇山 富之

総務部長 二岡 敦彦

教育部長 原 みゆき

政策推進部地域振興課長 細田 浩

総務部総務課長 神庭 弥

教育部教育総務課長 遠藤 浩司

教育部学校教育課長 椿 英隆

総務部総務課総務行政係長 野坂 茂樹

教育部教育総務課総務係長 青戸 かおり

教育部学校教育課学事係長 佐伯 由里子

総務部総務課総務行政係 吉川 純平

4. 欠席者 なし

5. 傍聴者 なし

6. 議 題 (1) 安来市教育大綱の一部改定について

(2) 安来市立小中学校適正配置基本計画について

7. 内 容

○神庭総務課長(司会)

ただいまから、令和5年度第2回安来市総合教育会議を開催いたします。総務課長の神庭と申します。よろしくお願いたします。

皆様にはお忙しい中、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。議事に入るまでのところは、総務課で進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

まず、傍聴人でございますが、今のところなしという状況でございます。会議の開会以降は、傍聴の希望があれば随時入室を許可するという事で、議長に確認をさせていただいています。それでは、市長がごあいさつ申し上げます。

○田中市長

開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多用の中、令和5年度第2回安来市総合教育会議にご参集いただき、誠にありがとうございます。教育委員の皆様には、平素より本市教育行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、安来市総合教育会議は、平成27年の設置より、これまで安来市教育大綱策定のほか、部活動や学力向上、ふるさと教育、いじめ問題、ICT環境整備など、様々な教育課題について意見を交わしてまいりました。本日は、「安来市教育大綱の一部改定」についてと「安来市立小中学校適正配置基本計画」についての2つを議題としております。

令和2年3月に制定した第2期安来市教育大綱についてであります。この間、小中学校適正配置の議論を進める中で、一部の文言を基本計画に即したものに變更したいと考え、提案させていただきたいと思っております。

また、安来市立小中学校適正配置につきましては、私も様々な意見を申し上げましたが、令和3年度に安来市教育政策推進会議から受けました提言を基に、教育委員会において、適正配置の基本方針を策定していただきました。この基本方針に基づき、基本計画を策定するため、20名の委員により構成される審議会を設置し、議論を進めていただき、8月30日に教育長に対し、答申されたと承知しております。本日は、安来市総合教育会議として、この基本計画を委員の皆様と確認していきたくと思っております。議題の詳細につきましては、事務局より説明がありますが、委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。よろしく申し上げます。

○神庭総務課長（司会）

ありがとうございました。それでは、会議に入る前に、本日の資料の確認をさせていただきます。まず本会議の次第、総合教育会議委員名簿、教育大綱の一部改定についてが2枚、小中学校適正配置基本計画（案）になります。

安来市総合教育会議設置要綱第7条により、議事録は公開となりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

本日の会議の終了時刻はおおむね17時、午後5時を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、安来市総合教育会議設置要綱の規定により、市長に議長としてこの会議の進行をお願いいたします。

○議長（田中市長）

次第に従って進めたいと思っております。まず、議題1、安来市教育大綱の一部改定についての説明をお願いします。

○神庭総務課長

資料1の紙2枚をご覧ください。上段に記載しておりますが、第2期安来市教育大綱は令和2年3月に制定されました。この間、小中学校適正配置の議論を進める中で、一部の文言を基本計画に則したものに変更したいという提案でございます。

カラー刷りの方を見ていただければと思います。いずれも主な取組みのところでは、基本目標①の、確かな学力を育てる教育の推進の主な取組みに、情報活用教育という文言がありますが、近年、ICTという用語もある程度浸透してきたと判断し、ICT活用教育と変更させていただきたいのが1点。

もう1点が、基本目標⑤の、学びを支える教育環境の充実の主な取組みにある、ICT環境の整備という文言を、ICT環境の充実に変更させていただきたいというものでございます。理由としましては、資料1の下段に記載しておりますが、令和2年に第2期安来市教育大綱を制定した際は、国のギガスクール構想により、児童生徒が使う1人1台の端末の整備を始めた段階でございましたが、その後、整備が整い、現在はハードとソフトの両面から環境の充実に努めている段階に移行しているところであるため、整備を充実に改めたいと考えております。説明は以上でございます。

○議長（田中市長）

説明が終わりましたが、委員の皆様ご質疑、ご意見ありますでしょうか。

○秦教育長

教育委員会でも指定事業等でICTの活用を進めていますが、今、指定校の公開授業がいろいろな学校で行われていまして、この前も小学4年生の授業を市長にもご覧いただきましたが、非常に子どもたち習熟をしていて、ICTを上手く使った授業づくりがかなり進められてきているのかなと感じています。先ほど提案理由にもございましたが、第2期安来市教育大綱が策定された時から一気にギガスクール構想が浸透し、市の方でもハードの整備、通信環境の整備も非常によくしていただいたおかげでここまで進めてきましたので、安来市の教育の大きな特色として重点化を図る意味でも、今回のご提案は良いのではないかと私は思っています。

○寺田委員

安来市は島根県の中でも、Chromebookをかなり早い時期に導入してもらい既に浸透しているので、これから先のことを今、考えないといけないと思います。当初は、子どもたちが機器に対してどうなのかと不安でしたが、今はもうおもちゃを扱うように上手に使いこなして、小学校高学年になると私たちでも分からないことを手際よくするので、非常に頼もしく思います。やはり、子どもたちの才能を伸ばすにはこのようなICT機器が一番良いのかなという気がし

ておりますし、今後も、更に推し進めていただきたいと思いますので、この文言でよいと思います。

○加藤委員

言葉の表現の違いだと思いますが、ICT環境の整備から充実へということで、ワンランク上がったような、整備が終わったのでこれから更に充実させていくという表現だと私はと思いますが、何か具体的に予定されているものがあれば教えていただきたいと思います。

○椿学校教育課長

今後、プログラミング教材の購入、教師用のデジタル教科書といったものの整備を進めていく予定としております。教師用のデジタル教科書が入りますと、各教室にビッグパッドという電子黒板の整備をしていただいておりますが、そちらと子どもたちが持っている教科書とが非常にリンクしたつくりになっておりますので、画面上で書き込みをしたり、関連する情報の動画に飛んだり、そういったことが非常にやりやすくなっておりますので、子どもたちの理解を助ける形になっております。

○青砥委員

今、子どもたちは紙の教科書を使う、カバンに入れて通学している。いずれはどうか、Chromebookが教科書の代わりになるというような構想といたしますか計画があるということでしょうか。

○椿学校教育課長

英語の方は既に児童生徒用のものもデジタル教科書が入っております。それから算数数学については、希望の学校には入る状況になっております。ただ、それ以外の教科書については、一気にデジタル移行とはならないと思いますので、紙の教科書と併用しながら進めていく形になると思います。

紙には紙の良さもありますので、英語や算数数学は先ほども申しましたように動画に飛んだりですとか、特に算数数学ですと立体の図形を動かして、3Dでイメージしたりといったところが非常に機能的に優れておりますので、そういった面で先んじて進んでおります。

○平野委員

最近の教科書はデジタルコンテンツが多くついていると思いますが、QRコードを読み取るなど、そういったことはChromebookではできるのでしょうか。

○椿学校教育課長

カメラから読み取って自分の機器で見ることができます。そういったところも個別最適な学びということで、自分はこちらを先に見たいという時など、それぞれ興味があるところから勉強を進めていくことにつながっています。

○平野委員

I C T機器を使うことに大人たちが慣れていないというか、デメリットばかり考えて、小学校低学年から与えるのはどうなのかと思っていましたが、子どもたちがとてもスムーズに使っている印象がありますし、逆に大人が教えてもらうことも多く、安来市が最先端でしていただいて本当に良い取り組みだと思います。

○椿学校教育課長

関連してよろしいでしょうか。学校で使える状況になっているのは、教室で一斉に使っても止まらないように回線の整備等をしっかりしていただいた結果だと思いますので、非常にありがたいことだと思います。

○議長（田中市長）

I C T事業では、安来市が一番進んでいるといつも言われます。実感は私はないのですが、そのように言われますので誇らしく思っています。

教育長、教育部長と一緒に十神小学校に行きましたが驚きました。I C T教育だから何も言わないかと思っていましたが全然違いまして、もう共同作業でした。C h r o m e b o o kを持ちよりながら、意見が違った人がいろいろな話をするともた意見が変わったりしますので、やはりそこでマンツーマンと言うのでしょうか、人と人とのつながりを重視した教育をしております、非常に凄いなと思って見せていただきました。

それでは意見も出ましたので、提案のとおり大綱の一部を改定するというところで決定させていただいてよろしいでしょうか。

○一同

はい。

○議長（田中市長）

ご異議なしということで決定させていただきます。ありがとうございます。

次に、議題2、安来市立小中学校適正配置基本計画についての説明をお願いします。

○遠藤教育総務課長

6月に開催されました総合教育会議では、適正配置審議会において諮問に対する検討の状況を説明させていただきました。その後、諮問に対する審議会からの答申に基づき基本計画を策定し、説明会の開催やパブリックコメントを実施いたしました。そして教育委員会会議において、基本計画の策定を完了したところでございます。

本日の説明は、策定を完了いたしました基本計画の内容について説明をさせていただきます。では、別冊となっています安来市立小中学校適正配置基本計画案こちらをご覧ください。

まず、表紙の次のページにあります、はじめにをご覧ください。はじめにの下

から2行目に記載しておりますが「学校の再編だけでなく、総合的な教育環境の整備を行い、次の世代を担う安来子どもたちを育成する活力ある学校づくりを着実に進めてまいります。」として、子どもファーストを念頭に取り組んでおります。

次のページにあります目次をご覧ください。一点お断りと訂正をさせていただきます。目次の下段にあります資料のページが41ページとなっておりますが、資料は別冊にしておりますので、41という表記を別冊に訂正いただきますようお願いいたします。大変申し訳ございませんでした。

1ページ目をご覧ください。基本計画策定の目的にこれまでの経過を記載しております。

2ページ目をご覧ください。3. 安来市立小中学校の現状と教育環境の課題として、人口推計や人口動態を記載しております。減少傾向が顕著であり、全国的にも人口の増加が望めない厳しい状況であります。

4ページ目をご覧ください。図表6. 小中学校の児童生徒数の推移と推計です。中段の太枠、合計をご覧ください。平成15年度には3,846名いた児童生徒が令和5年度には2,634名、そして、令和4年度生まれのお子さんが小学一年生となる令和11年度では2,207名となります。さらにこの状況で推移した場合、令和4年度生まれのお子さんが中学一年生となる令和17年度では1,606名と推計され、平成15年度に比べ2,240名の減、割合で58.2%減となることを見込まれております。

6、7ページ目は、市内にございます小中学校22校の現状を記載しております。

8、9ページ目をご覧ください。国及び島根県の学級編制の基準、また、複式学級の基準や教職員の配当表を記載しております。審議会や説明会でご質問があり、国や島根県の基準を記載したところがございます。

10、11ページ目をご覧ください。全国学力・学習状況調査について、令和5年度の結果を記載しております。学力だけでなく学習や生活の様子に関する調査結果を記載し、教育現場の現状について触れております。

12、13ページ目をご覧ください。基本方針の説明会でのアンケート調査の結果を記載しております。関心の高さ、多様な考えがあることが伺えます。特に、13ページ目にあります、市民から見た学校について感じることのよい点と心配な点につきましては、多様な考えがあることが伺えます。こちらに関する詳細な資料は説明会にて配布、また、ホームページにも掲載しております。

14、15ページ目をご覧ください。小規模校の良さと課題ですが、15ページ目にありますように、上段は文部科学省の手引きに記載されている内容。下段は我々が説明会等で実施した際の参加者の方の声や、市内の学校に勤務されてい

る先生方の意見であります。小規模校に対する様々なお考えがあることが分かります。

16、17ページ目をご覧ください。学校施設の状況ですが、学校施設の長寿命化計画の抜粋を記載しております。既存施設を必要に応じて改修を行い、使用する場合には詳細な確認が必要になると考えております。

18ページ目は、安来市教育大綱に基づき、安来市が目指す学校教育。19ページ目からは、望ましい教育環境を実現させるための基本的な考え方を記載しております。なお、19ページ目から22ページ目までは、基本方針に基づく、育ち学びへの具体的な取組を記載しております。

23ページ目をご覧ください。学校と地域の連携・協働です。下段のイラストをご覧ください。図の左側にあります学校運営協議会、コミュニティ・スクールを各学校に設置していく計画であります。また、図の右側にあります共育協働活動は、地域主催の活動等により、学校、地域、家庭がともに学び育つ活動であります。この二つの連携・協働をしていくことで、図の下段にありますように、地域とともにある学校づくり、子どもを核とした地域づくり、人づくりに取り組んでいくことができると考えております。

25ページ目をご覧ください。(4)通学的手段と安全確保です。再編に当たり重要な課題であり、再編時の合意形成においても議論されると考えております。

26ページ目をご覧ください。6.小中学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方です。まず(1)計画期間として、本計画は令和6年度から令和17年度までとしております。そして27ページ目は、基本方針の基準を再掲し、(3)再編に向けての基準と考え方は、答申に基づきながら、アからカまでの6項目として、その考え方を記載しております。

28、29ページ目をご覧ください。学校再編の具体的な枠組みです。28ページ目では主に、存続となった学校についての説明をしております。本計画において存続とした学校につきましては、基本方針の基準にありましたように、小学校は各学年で10名以上という一定の規模が今後も保たれること。中学校は当面の間、2クラス以上が編成できるということが見込まれるといった理由により、存続としております。また、比田小学校につきましては、審議会の答申にもありましたが、通学距離による児童の負担、小さな拠点づくり推進協議会等の活動が顕著であり、地域の活力があることなどを考慮し、比田小学校は存続としております。

なお、先日開催されました比田地区住民大会では、比田地区の小さな拠点づくり推進協議会の取組等が説明され、地域の活力を感じる一方、パブリックコメントでは、比田小学校も他校と同様に再編を検討して欲しいといった意見も寄せられておりました。比田小学校に限らず、現状の項目においても多様な考えがある

ことが伺えます。教育委員会事務局としましては、様々な意見があることは承知しておりますが、まずは基本計画にある再編計画に基づき、地域の合意形成に取り組んでいく考えでございます。

29ページ目は、教育委員会にて協議した再編計画を一覧にしたものを記載しております。答申の内容と同じ再編の枠組みになっております。

30、31ページ目をご覧ください。先ほどの再編計画の一覧をよりイメージしていただくために、市内の地図に表記したものでございます。30ページ目は、再編となる小学校の校区を緑色の太枠で示しております。地図上に四角の枠で校区ごとに、令和5年、令和11年、令和17年の生徒数を表記しております。31ページ目には、再編となる中学校の校区を赤色の太枠で示しております。第二中学校と第三中学校の再編案を議論いたしました。が、学校の規模、現在の学校間のつながりなどを考慮して、第二中学校と伯太中学校を再編する枠組みとなりました。

32ページ目から36ページ目までは、校区ごとの個別像を記載しております。再編の理由につきましては、上段のグラフにある児童生徒数の推移を考慮し、再編の理由を記載しております。ページの下段には、校舎の考え方を記載しております。

37ページ目をご覧ください。今後の進め方です。中段の図をご覧ください。基本計画が策定された後には、図の左側「みなさんにご協力いただくこと」として、校区において地域協議体を立ち上げ、地域の合意形成を図りたいと考えます。そして図の右側、教育委員会において対応することとしまして、地域協議体への支援、施設整備、通学方法等の検討を並行して行います。教育委員会から再編に関する資料をお示ししながら、校区での合意形成を図っていただき、合意形成が図られた後には、小中学校適正配置実施計画を策定いたします。その後は実施計画に基づき、校区ごとの学校再編の学校準備会を設立していく考えです。大まかな流れとしまして、このようにイメージしております。

38ページ目をご覧ください。合意形成のための地域協議体と開校のための学校準備会についてです。図の上段左側にあります合意形成のための地域協議体ですが、イメージとしては、再編対象となる校区のPTAや教育後援会等の保護者組織、学校評議員会、自治会長会、交流センターを構成する運営協議会等の関係者の方により人選をいただき、選ばれた方々で構成される組織を想定しております。この地域の合意形成が重要と考えております。そして、合意形成した後は、図の中段中央にあります準備会へスムーズに移行するためにも、教育委員会も事務局として参画いたしますが、行政主導ではなく、その協議体において、できる限り主体的に決定していただくよう進めたいと考えております。

39ページ目をご覧ください。想定されるスケジュールのイメージ図です。再

編の枠組みごとに大まかなスケジュールを表記しております。校区ごとに見ると、第二中学校と伯太中学校の新設となる中学校が開校した後に、第二中学校校区、伯太中学校校区の小学校となる校舎が改修される流れとなっております。これは、新設となる中学校校舎が一区切りついた後に取り組む考えであるため、飯梨小学校、荒島小学校、広瀬校区の小学校とは異なったスケジュール表記としております。しかしながら、合意形成につきましては、どの校区においても速やかに検討を進めたいと考えております。

40ページ目をご覧ください。今後、検討を要する事項です。第三中学校について、個別の調整についての二項目を今後検討する事項としました。なお、合意形成の過程や校区での協議により、新たに検討する事項等が増えることも想定できますので、柔軟な対応もしなければならぬと考えております。

資料につきましては別冊になっておりますが、説明は省略させていただきます。以上、説明とさせていただきます。

○議長（田中市長）

説明が終わりましたので、意見交換をさせていただければと思います。まず私から、以前から申し上げているように議員の時から、私は宇賀荘地区出身ですが、だんだんと小学生、中学生が目に見えて人数が少なくなりまして、私の大学一年生の孫が小学校に入った時はもう10人ぐらいでした。その後もあまり子どもが増えていません。5人であったり、6、7人いる時もありますが、なかなか多くなりませんし中学校も同じです。当時、何とかしたいと思い、議会が決めることではないので執行部に言いましたが、そういう提案はすべて却下されました。

また、私は長らく議長もさせていただいていましたが、議長になるとなかなか一般質問もできませんでして、会派を組んで会派の中でいろいろな方に一般質問をしていただきましたが、いずれも良い返事がもらえませんでした。そうしたら、こういう席に座らせていただくことになりましたので早速行わせていただきましたし、秦教育長にも教育長になられる前から、現状を何とかしたいということをお願いして、教育長になっていただきました。今まで議会から提案しても、市長と教育長とで意見が違うといけない、私がいくら旗を振っても教育長にしていただかないとできないということです。このようなことを提案して、皆さん方がよく頑張っていたおかげで計画があると思いますので、非常にありがたく思っています。今後も実現するようにしていきたいと思っています。

私の意見は以上でございますので、皆様方にご意見をいただきたいと思っております。

○加藤委員

今、田中市長が言われたことをもう少し聞きたいと思われましたので、もう少し踏み込んでお聞きしたいです。この基本計画は今日の段階でほぼ確定ということで決まりましたが、本当に私が見ても説得力があり、計画性もある、あまり突っ

込みどころがない計画になっていると思いますので、これを基にどんどん進めていただきたいと思います。ただ、これだけで全てことが終わるわけではないので、もしよろしければ市長さんのお考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（田中市長）

私は先ほど申し上げましたように、現状を危惧しておりましたことと学校が老朽化していること、公共施設の総合管理計画をずっと進めていたはずですが、30年ほど前まではとある小学校はまだ全てボットン便所でした。こういった学校で育つということは、子どもも大変な思いをしますと思いますので、学校の果たす役割とは、教育、人数もそうですが、やはり施設整備もしっかり行い、きちんとしたところで学校教育をしないといけないという思いをずっと持っています。今はWebでのリモート教育もありますが、やはり人と人とのつながりが一番だと思っています。

あまり答えになっていないかもしれませんが、合併して安来市になった時に、安来市の教育としてはきちんとしたものをしないといけないとずっと思っていました。様々な問題がある中で、再編という言葉がやわらかく、統合というときつい言葉ですが、良い言葉を使って作っていただいたと思います。前に進むには遅すぎたという気持ちはずっと持っていますが、今、この時から急いで進めていかなければいけないと思っています。

○寺田委員

もう一つお聞きしたいのが、ここまでパブリックコメント、それから地域の説明会に私も時間がある限り出させていただいて、反対する人はほぼいない、中にはできるだけ早く進めて欲しいという意見もあり、それが地域の方々、それから、保護者の方の意見だと思っています。今度、12月に議会の方へ提出していただくわけですが、そのあたりの感触といいますか、よく他の市町村で、議会で急に反対されたなどそのようなことも聞きますのでいかがでしょうか。

○議長（田中市長）

3年前まで長らく議員をしていましたが、議会から計画・提案したことを払うことはほとんどありません。意見を申し述べたり、市民から直接声を聞いて執行部に提案するだけです。加えて、この話は大分前から議会に出ていましたし、今は私がいる時に作った会派が3人から8人になっていますので、おそらく全員が賛成すると思います。ただ、来年、市長選挙があつたりしますので、先ほど言いましたように政治利用をされると困りますが、そういうことがないようにするのも我々の務めですので、きちんと説明しようと思っています。

また、議員の時にあつたのは、都会におられて、大人数で少し窮屈なので子どもが少ない方が良いということで、中山間地に移住して来られる方がたくさんおられました。その方々の意見も聞いて叱られたこともありましたが、これから安

来市民として市の子どもとして育つにはという話をしてくれておりますので、どうするのか、いつやるのか、財政計画はどうかなど、意見はあると思いますが反対は無いと思います。

○青砥委員

この適正配置については、早めの実施を求める声が多いわけですので、第二中学校と伯太中学校の再編が終わってから、宇賀荘小学校と南小学校と能義小学校の再編を行うことになり、中学校を新設すると財政が大変だと思いますが、財政的な計画についてお聞かせいただければと思います。

○議長（田中市長）

改修や新設が必要ですし、早く進めないといけないと思っていますので、財政見直しにはその考え方で入っております。ただ、皆様方が様々な提案をしていただいて、議会で理解を得て、このスケジュールに従っても、一年、二年ではできませんので、財政計画もこの計画に合わせて作っていきたいと思っています。

また、直ちに新しい学校を建てるといふことだけがすぐに行うことではないというのも一部ございます。まだまだ使える学校もありますし、IT企業等が、そういった使わない学校を目指して来るということもたくさんありますので。安来は耐震が引っかけたりしていて駄目ですが。

できれば多額のお金がかからないような方向で早めに再編するように、少しずつ浸透していけば住民理解も進むのかなというのも考えの一部であります。新設につきましては、とにかく施設整備は時間がかかりますので、優先して財政の中で進めていきたいと思っています。

○平野委員

この協議が始まった頃から、地域から学校が無くなると地域が衰退するのではないかという心配な意見がとても多くあり、今でもあると思いますが、学校が無くなり、子どもたちの声が聞こえなくなって寂しいというのももちろんだと思いますが、身近に子どもたちを感じられないと、大人の関心もすごく薄れていくのではないかと思います。24ページなどに、「行政が伴走的な支援体制、積極的に関与していきます」といったことが書いてありますが、地域づくりも含めて、再編によって学校が無くなった地域への支援はどのようにしていただけるのでしょうか。

○議長（田中市長）

学校が無くなると地域が衰退すると言われましたが、15年くらい前に広瀬中学校は統合していますが、それで中学校が無いからといって問題は無かったと思います。今度は小学校の再編をするわけですが、同時に交流センターの適正な運営や配置等を検討する会も作ってしまして、それはやはり、交流センターが核となって、その地域の様々なことをしていかなければならないという思いがあるか

らです。

学校がないと、子どもの声が聞こえないといけない、というような声は、ほとんど我々の年代などの高齢者です。今、子育てされている年代はそうは思っていないということを前提に話をしていますが、今までの例で言うと学校の校庭や体育館は残しますので、例えば、布部は非常に活用されて、交流センター活動をそこで今まで以上にしておられるところもあります。

そういったことを考えますと、必ずその問題は出ると思っています。私の地域でもそうです。例えば、宇賀荘があって南があって能義があって、みんな引っ張りたいわけです。宇賀荘の人は災害に強い宇賀荘だと思っけていますし、能義の人は情報科学高校が近くて良いとかですね。ですが、今の親御さんはそう思っけていません、早くしてもらわないと、もう既に子どもが少ないところはスポ小や部活ができません。今、私の大学に行く孫の下くらいの世代からずっと、複数校一緒にならないとスポ小や部活動ができません。第一中学校・第三中学校だと様々な部活動がありますが、第二中学校等は部活動が限定されます。テニス・野球・バレーボールそれだけです。バレーボール部等は一学年で人数が揃いませんので、このような状況について、親御さんが何年も前から心配されております。その対処方法として先ほど言いましたように交流センターに力を入れていますし、それから、地域活動する場を作っけていかないといけないと思っけていますので、行政が方針を示すことは早く示して、安来市の中の集落を見捨てないという方針でいかないといけないと思っけています。

今日の午前中は、山佐交流センターに行っていました。2ヶ月ほど前に、山佐、下山佐、上山佐、奥田原を含めた山佐地域合同で市政報告会をし、その時にこの話を全部いたしまして、評判が良かったので、今日は食事会に呼んでいただきました。なぜ呼ばれたかという、あの辺りで、移住してきていただくために市と県とでお金を出して空き家を改修されている関係です。人が第一印象として悪い印象を持っけていても、しっかり話をしななぜこういうことが必要なのかということをし話していけば、様々なことができるのではないかという思いが一つあります。

それから大きな方針として、地域の活動をどのように活性化させて、人が住みやすい都市にしていくのかということは今も思っけておりますので、その方針をもっと強くしていきたく思っけています。

また、今日、山佐で言われたことは、山佐から三刀屋まで何時間、広島まですぐ近い、安来市街へ30分で行けるなど、ここは非常に良いところだというお話をされました。考えてみればそうですし、実際に安来市街に通っけている方がたくさんおられるわけで、今、安来市街に集中して企業の誘致活動をしおっけて、おそらくもうすぐ様々な企業が進出してきますので、そこから30分、40分圏内

で通勤可能な山佐などに住んでいただいても良いのではないかと思います。

上山佐は最初、小学校・中学校が無くてと言われていましたが、どうやって前に進んで行くかということをお皆さんで考えてもらうようになりました。そういったことを市で行っているということをお、情報公開していかないといけないと思っています。3年前からずっと、どじょっこテレビに協力していただいていますので、今行っていること、これから行うことのお情報を流していけば理解していただけることが多少あると、それを広めていこうと思っています。

○加藤委員

今のお話で、やはりでも、昔一斉に学校が建てられて、その後にお学校の周りお便利がいいからということでお家や公民館が建てられて、まおの拠点ができたと思います。それが様々な時代のお背景によって変わってきているので、小学校・中学校、あるいは高校もそういった人数規模にお応じて減ってくるということは致し方がないと思いますが、安来市は広いです。これを小さくすることはできませんので、安来市は住みやすくお良いと思われる方もたくさんおられると思いますが、子どもがお安心安全に通学できる手段というおのが懸念材料になるのではないかとお思います。

どの学校も私がおが学校に通学していた時から比べると、親御さん自らの手で車に乗せて通学させるということをお多く見るようになってきました。ただ、これからは女性活躍の時代と言われてはいますし、共稼ぎというおのは当たり前で、お母さんが必ず家にいるというわけではないです。お、そうなるとやはり子どもは、通学に対する不安とおいいますか、通学圏がどうしても広くなりますので、その辺りのインフラ整備や足の確保をお充実させることにより、不安が無いということであれば、安来市は近くに松江市や米子市と大きな町を抱えていますので、住みやすい、通勤通学しやすいということが分かれば、転入者も増えるのではないかとお思います。お、その辺りの何か交通手段というおか通学手段というおのは考えておられませんでしょうか。

○議長（田中市長）

問題はそこでおして、イエローバスにしても運転士不足で、今、路線は確保してはいますが、要望があるのは車を小さくして、いわゆるデマンド交通のように、小さいところでもしてもらえないかという要望をお多くされます。しかし、それを誰がお運転するのか、運転士不足が顕著でおして、人口減少の中で運転士だけ確保できるということはないです。新聞等でお一畑バスが撤退するという記事もありましたし、それを補完する意味でお安来市はイエローバスをお運行してはいますが、これもいつまで続くか分かりません。

また、朝と夜しか乗る人がいない路線をおどうするのかということがあります。例えば小さめの10人乗りくらいのもにしてはいいのですが、朝は一台お間に

合わないくらい通勤・通学で乗る人がいまして、これをどうするかを先に考えないといけないと思っています。バスを運営する会社は、1日全体を考えて採算が取れるように人数と車を配置するわけで、朝と夜だけ来てくださいということではできませんので、去年から提案していることは、地元の方にイエローバスをしていただくということです。今のところその地元の方も急だったので、来年度もう少し考えると言われて、イエローバスの業務委託期間が3年ほどありますのでその間に考えることとしました。

それから、中山間地にはスクールバスがありますので、こちらも運転士の確保が難しいですが、学校の送迎だけでするので基本的に利用しないといけないと思います。

デマンド交通も違った意味でもう一つしないといけないことは、ドアツードア方式というのを提案いただいています、家から乗り、病院や職場や学校に行く、そういったことができないかと検討していただいています。ただ、例えば比田から広瀬に行くには比田も西比田・東比田があり、西比田に集まっていたいただいてから約40分かかりますので、そうすると合計約1時間半かかる。そういった路線があるということは、学校にとって非常に不利ですので、いろいろと考えますがなかなか難しい、ドローンで子どもを運ぶ訳にはいかないですし、もう少し考えないといけないと思います。

この前の十神小学校の4年生の授業では、30人ぐらいいて、30人は多すぎるようですが、その中で意見を言い合ったりと、切磋琢磨する様子も見て、小さい学校ではいけないという気持ちがありますので、その辺りの理解を求めていけないといけないと思います。今のところは個人の方々に送っていただいているということがありますが、そういうことが無いようにする方法があると思いますので、模索していきたいと思っています。

今の高齢者については、赤屋や比田や宇波などは、車は市が貸与してその地域の方々に運行していただいておりますが、これもいつまで続くか分かりません。我々、中山間地を抱えているところはもう少し考えないといけない。私の家からしても、例えば大塚から歩いて第二中学校まで行くというと、これも結構距離があり批判がでると思います。元々、宇賀荘小学校は大塚・吉田と一緒になるという話でしたが、清水等から川を渡って行くのはいけないと当時言われたことがあり、それで南小学校が単独でできたということです。ですので、なかなか進まないのは分かっていますが、理解していただきたいと思っています。

○加藤委員

絵に描いた餅みたいな話をすると、大分実証されていますが、おそらく路線バスは近い将来無人になると思います。無人でないとおそらく対応できない。私が思うのが、スクールバスは必要ですが運転士の確保が難しい。そこで、スクール

バスを無人化というのは結構夢のある話だと思います。必ず決まった路線しか走らないですし、子どもが例えば端末機かなにかを持ってお金を払うことができれば、乗車や下車が分かる。というようなことが、おそらくそこまで先の将来ではないところでもう始まると思います。

今、ICT教育最先端の安来市、そしてIT企業を誘致しようという市長の考えから、もう無人バスが走っているのかと。ただ、全路線整備するというと予算の関係もあるので、ある程度のところから実証ができて、安全が確保できるとどんどん普及していくと思います。中山間地域については雪が降ったらどうするかという話にもなりますが、冬場の奥部については、例えば農家の方であったり冬場は仕事が無いわけですので、そういった方を確保しておいて、雪の時などは有人だと、そうするとおそらく併用できるのではないかと思います。

無人バスというのは必ず来ます。今、タクシーでも無人化と新聞でもささやかれて、どの自動車メーカーも走っているわけですので、ぜひ市長さんに様々な先進地を回っていただいて、全部ではなく限られたところからでも始められると非常にいいのではないかと思います。

○議長（田中市長）

東京ビッグサイトに最先端の展示会を結構見に行くのですが、そこにAIバスというのがありまして、無人ではないですが、誰かがスマホ等で呼ぶと、最短距離で行く方法を考えて、拾っていくというのがあります。しかし、現在の先進地の状況を伺いますと、やはり自動運転はまだまだかと思っています。

○寺田委員

できるだけ実証実験を安来市でもしてもらおう。やはりどうしても再編したときに親御さんが気になるのは、通学手段の確保のところ、一つ私が考えるに、朝・夜だけではなく、日中はお年寄りの方を乗せて買い物等に使えるように。

必ず言われるのが、学校が無くなったら行政は何をしてくれるのかとよく言われるのですが、それは公助でして、共助も今、頼る時代では無いから自分たちで何とかすべき。そうすると、あなた方が運転手になり子どもを育てるので、子どもの送り迎えを、更にお年寄りの買い物もしていいのではないかと。ただ、その保険は、車はどうするのかと、それは行政の方で貸し与えるなど、そういった意味で様々な策が出てくると思うので、その辺りも喫緊の問題として、校舎が先か運送手段が先か、校舎ができて開校しても通学手段が無いと、どうしようということになると思うので、並行して考えていかないといけないと思います。

また、地域で考えていただくが、こちらからも提案しながらでないとなかなか話が進まない。地域だけではお金が無いからどうしてくれるのかということになると、行政がこれを与えるからと言いつつ一方的にしても駄目だと思いますので、財政的にかなり負担かと思いますが、こうするという限りは、最善の安

全安心な通学方法を確保し、親御さんに安心して遠くの学校に再編してもらおうということをしないと、後々、再編したが通学が大変などと言われると駄目だと思いますので、よく考えていただければと思います。

○議長（田中市長）

スクールバスがあるところについては、言われるとおり人も少ないので、小さくして通学以外にも活用すれば、運転士の方も1日仕事になると思います。

行政サービスにつきましては様々なことを考えておりまして、来年1月から、マルチタスク車両というのを導入します。これは非常に素晴らしいです。動く市役所といいますか、少し離れた市役所が無いところを巡回しまして、事前予約が必要ですが、車に積んである画面に市役所の職員が出てきて、どんな相談でもできるようにします。

それから、コンビニにある機械も積んでおりまして、証明書がすぐできます。これは全国初だそうです。市内の中山間地なども含めて、2週間おきにずっと走ります。行く場所は家などではなく、大体は交流センターや自治会などですが。

買い物についても、広瀬方面は1人自分でサービスを確立された方がおられますし、他にも様々な買い物サービスをするという若い方がおられます。それだけに頼ってはいけませんので、行政側でイエローバスを使い、交流センターまでもを運んだらどうかなどと様々な提案をさせていただいております。何分広く、40分かかるところもありますので、そういうことを考えないといけないと思います。

また、夫婦で仕事をする家庭が安来市は全国一だそうです。人数ではなく人口の比率ですが。それほど皆さんご活躍されているので、子どもをどうするかというのを一番で考えないといけないと思っております。

なかなか答えになりませんが、先ほど提案があったように、スクールバスと高齢者用にマイクロバスは大きいかもしれないので、10人乗りくらいのものにするなど考えて、できることから始めていければと思います。

○平野委員

先ほど私が質問をした時に、地域から学校が無くなった時には交流センターがあると仰りましたが、今の学校と地域をつないで、活動を積極的にしてくださっているコーディネーターの方の力が凄いと、学校訪問に行ったところの校長先生も大体仰ります。地域との関わりを作るといってかマッチングをしてくださるといってか、地域の方が学校に来やすいようにその行事・事業にマッチした人を選んでくださったりと。

今は小さい学校も地域とつながりがあり、地域の方々も学校に協力的に参加してくださっている、学校が無くなった地域では、高齢者の方が対象となるので、そのつながりを無くさないような方向で維持できればいいと私は思います。です

が、そうするとコーディネーターの方のお仕事がとても増え、負担にならないかと心配ですが、コーディネーターの方の人材育成はいかがでしょうか。

○秦教育長

安来市が配置しているコーディネーターは、中学校区を中心につないでもらっていて、小学校はどちらかというと交流センターが、コーディネーターの役目をしてられる。というような住み分けに今なっています。

○細田地域振興課長

校区が広がりますと、コーディネーターの管轄される地域も広がり、大変であると思っております。各交流センターには、地域の情報も集まりますので、地域と学校をつなげるため、コーディネーターに協力していければと思っております。

○議長（田中市長）

コーディネーターは中学校区なので交流センターの運営委員ではないですね。

○細田地域振興課長

コーディネーターというのは交流センターの運営委員ではありません。今後、学校ではコミュニティスクールという組織が立ち上げられていきますが、コミュニティスクールが、コーディネーターや交流センターと連携していくことになると思っております。交流センターも地域の皆様と学校とのつなぎ役としてしっかりと協力していきたいと思っております。

○青砥委員

データ上は少子化が進み、国も少子化に対する対策をとっており、市長さんも企業誘致を積極的に進めるなどしておられると思いますが、安来市独自で少子化に対しての取組のようなものはありますでしょうか。

○議長（田中市長）

なかなか独自というものは無いかもしれませんが、他と同じように子育て支援のためのセンターの設置であったり、それとこの前からしていることは、金芽米のことです。なかなか理解できないかもしれませんが、医食同源米というものがありまして、病気にならないなど健康に子育てができるということで金芽米が全国各地で使われておりまして、安来市も今、小中学校給食センターで全量使っていますし、それから、妊婦さんが届けをされるとずっと配布をして、妊娠中から食べていただくということをしています。

また、議会の議決を経ないといけません、来年からは保育所・幼稚園の全児童に温かい金芽米を食べてもらうということにしています。今は幼稚園は違いますが保育所はご飯をもっていかないといけませんので、こちらで炊いたものを食べてもらうことができればと思っております。このように、健康面のことでは他と違ったことをしています。

先日、東京で医食同源米のコンソーシアムが設立して、安来市も参加しましたが、何年前からか様々な市町村で取組をしております、コロナにあまりかからない、落ち着きができたなど、様々な面で子どもの成長に非常に良いという結果を発表しております、これを行っていかうと思っております。

ネットにでるとたくさんの反響もありまして、関心のあるお母さんは金芽米がどのようなものか調べたりされていまして。かといって、金芽米を食べたから子どもがよりできるということは無いかもしれませんが。

先日、市長会の中で研修がありまして、「0歳から預けるから子どもが増えない」と言われまして、何のことかと思っていまして、保育士さんが子どもができないのではないかということと言われるわけです。0歳から皆さん預けられると、預かる方はどうか分かりますかと。ですから1歳までは家庭で見る。つまりは休ませなさいということです。行政の首長が集まっているので、1年くらいはしっかり産後の休暇を取らせなさいと、それは当たり前ではないかと言うわけです。そうかもしれませんが、全員ができるわけではないですし、それから、男性の育児がなっていない、大体、休ませないことが駄目など、朝早く出勤させたり夜の残業が多過ぎるなどと言われるわけです。少子化に対する一つの問題提起だと言われまして、それはそうかもしれないと思いました。お母さんの自由な時間を作らない限り子どもは増えませんよと。

また、東京一極集中するからですとこちらが言うと、それは出す方が悪いと言われたり、結局そのように言うということは、解決策が無いということです。どこも何をしたら子どもが増えるということはありません。とにかく行政としては、職員をあまり長時間働かせない、なるべく休ませる。それは納得しますが、休んでもらえないこともありますので。

少子化問題は難しく、何かあれば対策の参考にしたいですが、結構、お金を出すと子どもを産んでもらえるというのは嘘ですと言われます。子どもが産まれると100万円あげますという自治体もありますが、その制度は駄目ですと国の人と言われます。それをしたから人が増えるというわけではないと。

○加藤委員

しかし、他の町を客観的に見ると増えているところもあります。増えているところもありますが、やはり増えているところの隣は減っています。生産年齢世代の人たちは選択をしながら移動しているのだと思います。おじいちゃんおばあちゃんがいるからこの土地に骨を埋める勢いでというのは、もうナンセンスなのかと思うと、やはり松江市や米子市は人口が減っていないですし、子どもの数も学校によっては増えていますので、客観的に環境を見ると、住みやすく、働きやすく、育てやすいという三原則のバランスが良いところに皆さん行かれると。

では、安来市はどうかというと、おそらく育てやすいと思います。出生率も高

いですので育てやすい。それから暮らしやすいです。問題ありません。しかし、働きやすいのかと言うとそこが弱いのではないかと思いますので、その辺りがどうしても、子どもを育て、家庭を築いていく環境として総合的に見ると弱く、転出という形になってしまうのではないかと思います。

○議長（田中市長）

昔は待機児童が全くいませんし、保育所は定員を減らさないといけなくらいでした。加えて、街部の放課後児童クラブは3年生まで、少し街部から離れると6年生まで入れます。それは他と違って良いことだと思います。ですからやはり、宣伝の仕方の問題ではないかと思います。奥ゆかしい人ばかりで自慢しないので。

去年の安来市の企業版ガイドブックには108社に参加していただきましたが、その表紙を見ますと、島根県で1,000万円以上の世帯収入があるのは安来市だけだそうです。また、先ほど言ったように夫婦共働きの世帯が全国一で、皆さん頑張って仕事をしていただいていますので、経営者の方になるべく産前産後休暇をとっていただくように伝えられればと思います。市役所は結構、休暇取られる方が増えましたので。

もう一つ、多種多様な企業を誘致することに努力していますが、今、一番関心を持っていただいているのはIT企業です。次々に手を挙げていただいています。受け入れる場所を作るのが喫緊の課題で、加えて、住宅がありません。単身の住宅は結構ありますが。

長らくしていなかった政策の一つが住宅政策です。教育関係と住宅関係は全くというほどしていなかったです。それを今、急にはなかなかできませんが、一生懸命しております。その結果、団地を作るとすぐ一杯になります。飯島の方が少しずつ増えていまして、そのおかげで十神小学校の人数が増えています。あの辺りは線引き制度の問題がありますが、どうも安来市は線引き制度の廃止に賛成の人が多いようです。ですが、松江市は拮抗しておりなかなか上手くいかないの、安来市は全部改正ではなく必要などころだけ一部改正しています。

ただ、住宅政策についてはこれからいろいろ考えないといけない。やはり市街地に近いところでないとなかなか人が来ないので。住みやすいのは広瀬だと思いますが、スーパーが二つありますし、それこそ宣伝が悪いのでしょうか。伯太はコンビニが一つしかありませんので。10分ほどで南部町などにいけますが、これらを踏まえて我々も頑張ってまいります。

そうしますと最後に、やはり行政の方ですべきことはしっかりしていこうと思いますので、これからもご意見をいただければと思います。教育につきましては、全世帯、光ケーブルを結んであるのは安来市だけです。松江市や米子市は全部ではありません。ですので、Chromebookを家に持って帰られても勉

強ができます。

先ほどたくさんご指摘いただきました移動については、様々な意見をいただきましたので、そちらについても考えていかなければならないと思います。

また、今、一風亭を開放して島根県立大学と一緒に様々なことをして結果も出ておりますし、今年、島根県立大学に安来高校と情報科学高校から合わせて22名が入学されました。なかなか県内の人が入学しないようですのでとても喜んでおられました。ですから、そういったことをしながら安来市に残っていただく手段を考えなければなりませんと思いますし、高校生の勉強の場としても使っていると思いますが、そういった勉強の場を増やすことについても検討しておりますので、今後も一緒に頑張っていきたいと思います。

○秦教育長

私からも最後によろしいでしょうか。本日、教育委員会会議で基本計画の策定をさせていただいて、この場で市長部局とも共有させていただきました。再編ということで、学校を寄せていくということが現実問題としてありますが、それだけではなく、安来市の学校教育を充実させるための一環であると、当初から教育委員会では考えているところでして、総合的な教育環境の整備の方針を、この計画の中で定めることができたと思っています。今後は、地域合意を図っていくことが非常に重要になりますので、その点につきましても丁寧に説明をし、なおかつ着実に進めていこうと思います。

今年の教育委員会のテーマは、決意と覚悟という言葉で、事務局職員全員この合言葉をおそらく24時間忘れていないと思います。それほど気持ちで進めてまいりたいと思っていますので、市の施策も計画中のものが多くありますが、この適正配置の継続につきましても最優先の計画の一つということでご理解をいただいて、必要な予算の確保等も含め一緒になって進めさせていただきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っています。

○神庭総務課長（司会）

様々なご意見、皆様ありがとうございました。次回につきましては、今のところ今年度中の開催は計画しておりません。来年度は、引き続き基本計画の進行状況の報告や、第3期安来市教育大綱の策定が近づいておりますので、このご議論が中心になろうかと思っています。引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは、本会を終了させていただきます。皆様お疲れ様でした。